

# 職長（一般土木） 類瀬修

現場によって作業の領域や内容が多岐に渡るのが土木の世界。それを管理する立場ともなれば、多くの知識を身につけ、最新工法の情報に精通し、さらに多くの仕事を同時に見渡す処理能力を備えなければならぬ。職長（一般土木）。今回のプロフェッショナルは、土木の現場で元請に代わって工事の進捗を監視する現場監督にその仕事内容を聞いた。

## きっかけは「現場」のガードマン

一般土木監督・類瀬修は、一九七四（昭和四十九）年、神奈川県生まれ。東京の普通高校を卒業後、知り合いに誘われて警備会社に就職した。いわゆるガードマンの派遣会社で、ある時マンシヨンの建設現場に派遣されることになった。「よく現場の入り口に立って車の誘導をしている、まさにあのガードマンの仕事です。だいたい建設現場のガードマンはその現場が終わるまで同じ人がずっとやるんですけど、中で働いている作業員さんとか親方たちの雰囲気がよくて…」休憩時間に詰め所職人たちと話すうちに、

自分も建設現場で働いてみたい、と思うようになった。結果、組織変更を機に警備会社を退職し、現在の勤務先・株式会社都市建に入社した。「土木系とか建築の学校を出てるわけでもないんで、なかなか採ってくれなかったんですけど、たまたまうちの会社はそういう点にこだわらずに採用してくれたので感謝してます」

## ゼロからのスタート、勉強の日々

建築と土木の違いはあれど、あこがれていた現場での仕事に就けた。とはいえ、経験も資格もなく、予備知識があるわけでもない。

「作業員のフォローをするっていうことは、ある程度仕事もわかってないといけないので、人に聞いたり仕事が終わってから調べたり。資格の勉強もしましたね」

現場監督は、自ら手を下して作業をするわけではない。作業員たちが最適かつ安全な方法で施工しているか、手順に問題はないか、人員配置は理にかなっているか…それらを見極め、直すべき点があれば是正する、という立場である。



左／施工現場前にて、鴻池組・三倉靖所長、類瀬。  
中／[道路をつくる前に先行して土を削って排水用の雨水管を入れる工事と、土壌を選別する工事を2カ所で同時に進めています]  
右／現場では千葉ニュータウン21地区の開発が進行しており、完成すれば大規模な住宅地になる。



# KEEP

守り、伝えること

「自分がわかっていなくても作業は進んでしまう。  
でもそれでは今後にかける経験は積めない」



現場のプロフェッショナル  
KEEP & CHANGE

資格を取得するのも、業務上必要だからというより、その分野・作業についてとことんまで調べた結果という意味合いが強い。

「合ってるのか合っていないのか、危なくないのか、たとえ自分がやらなくてもわかってない

と見ていて指示も出せません。以前は上司も一緒でしたが、今は自分一人なので、安全面でも品質面でも全責任が自分にかかってくる。無知な状態で仕事させるわけにはいかないんで、わからないことがあればメーカーや業者に問い合わせ

わせたり、とにかく勉強の連続です」

「会社に入ったところはネットも今ほど発達してなかったもので、そういう専門書を取り扱ってる本屋まで休日に買いに行ったりしてましたね」

多くの業種のまとめ役

現在、類瀬が勤務しているのは宅地造成の現場。土木、排水、準備・仮設工などさまざまな業種の調整をする職長、というポジションだ。

「基本的には元請さんの補助業務、つまり各業種のまとめ役ですね。単純計算で、一班で五日かかる作業は二班なら二五日でできる。でも二班体制だと作業員も倍になるから、自分一人での対応が難しくなる。正解がない中から工期・コストを考慮して調整していく感じですね」

「正直、直接作業するのは専門工事業者の人なので、自分がわかってなくても事務的には進んでしまうんですよ。でもわからないまま終わるとか、せっかく経験しても次に生かせないなんてのは嫌なので、自分がかかわったものはないべく身につけるようにしてるんです」

作業所の鴻池組・三倉靖所長も、「少し心配になるくらいいまじめすぎる部分があったんですけど、日々の積み重ねで、今ではこんな大きな現場を任せられるくらいになった」と努力の成果を強調する。

最短で正しいことを教えて、伸ばす

「これまで、満足できた現場はないです。ここをこうすればもっとスムーズに、効率よくできたんじゃないかって、あとから振り返ってわかることなんで。もちろん事故もなく工事が終わって、コストも管理できて元請さんに感謝されたらうれしいですけど」

かつて若いガードマンとして現場の職人たちにかわいがられた類瀬も四十歳になり、若い作業員を教え導くことも増えてきた。

「若いころは紆余曲折あるものですけど、僕のイメージでは、最短で教えてもらって、その分ずっと真っ直ぐ伸びていって欲しいですね。作業効率を少しでも上げて、余裕ができたなら若い子にいろんなことを教える、それが理想です」



左/作業内容・施工方法についての調べものだけでなく、経費や工程のチェックも欠かせない。  
「病気で仕事を休まないのも、みんなが帰ったあとさらにもう一仕事するっていうのも、結局は体力ですよ」  
右/立場の上下に関係なく、作業員の存在には敬意を払うことを忘れない。  
「作業員さんがいないと仕事はできませんし、来てくれているのも自分がかかっているからというわけじゃないので」



るいせ・おさむ◎1974(昭和49)年、神奈川県生まれ。都内の高校を卒業後、警備会社に入社。建設現場でのガードマン勤務を経て、現在の株式会社都市建に転職。主に土木の現場に監督として赴き、さまざまな職種・作業間の管理・調整を担当する。土木施工管理技士1級・建築施工管理技士2級ほか取得。

# CHANGE

応じ、変えること

「若い人に間違ったことは教えられない。  
正しい知識や方法を授ける責任がある」